

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設名	連携型認定こども園ミナパもくせい
施設所在地	東京都昭島市
法人名	社会福祉法人多摩育児会

1. 活動のテーマ

<テーマ>

『動植物』

<テーマの設定理由>

(テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など)

当園は緑豊かな東京都の郊外に位置しています。クラス名を果樹の名前にしており、その果樹が全て植えてある果樹園の園庭があり、また、生き物もメダカや川魚だけでなく、烏骨鶏を飼育していて、産んだ卵を使用した食育も行っています。身近な園環境の中で動植物に出会う場が日常的にあり、“とうきょうすくわくプログラム”ではさらに興味関心の深まりを期待してテーマの設定を『動植物』としました。

2. 活動スケジュール

- ・9月から絵本や図鑑で生き物や植物に親しむ
- ・1月に種をまき、水やりを行いながら育て、間引きをしたものを含め、順次できた野菜を烏骨鶏のエサとして与える
- ・年度末まで継続して行う

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

- ・日々観察できるようにクラスのテラスに植木鉢を準備
- ・種（小松菜、リーフレタス、赤ラデッシュ）
- ・水栽培用のトレー、スポンジ
- ・ジョウロ

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

・水栽培用のトレーを使用し、種を発芽させる所から観察できるように室内に準備する。発芽したものを子どもと一緒に土に植え、育てる。
日々水やりを行い、成長していく様子を観察する。
成長した野菜を収穫し、園内で飼育している烏骨鶏のエサとして与える。
烏骨鶏が自分たちで育てた野菜を食べることでさらに興味が沸き、意欲的に水やりやエサやりを行った。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

・種を土に蒔く時には、砂遊びのような感覚で土に触れていたが、土や水栽培で発芽した時には、不思議そうに発芽している様子を見る姿があった。保育者の言葉「何かでているよ！」の言葉や「お水をたくさん飲んだから大きくなったのかな？」等の言葉に関心を持ち、室内に設置したジョウロや霧拭きを自ら手に取り、保育者にやりたい思いを身振りや言葉で伝えていた。また、収穫した野菜を烏骨鶏に与える時には、初めは少し怖がっている様子だったが、すぐに慣れ、自分から”エサをあげたい”と意思表示するようになった。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

”0歳児クラスだからたいしたことはできない”と、一般的には思われがちだが、保育者がまずその考えを取り払い、「0歳児クラスだが、こんなこともできるかも?!」「こんな体験もおもしろいかもしれない?!」というように、保育者がまずワクワクして、取り組んでみようとする姿勢が大切で、その思いや取り組みが目の前の子どもの意欲や好奇心をに繋がることを今年度の”とうきょうすくわくプログラム”を实践するなかで学ぶことができた。